

## 主張

### 地域と共に

吉田道一

本県では、昭和四十一年から教育振興運動が実施されています。これは県内すべての市町村に推進組織が置かれ、学校区や公民館区など計五百四十（平成二十一年度）の実践区において、児童生徒、家庭、地域社会、学校、教育行政の五者が一体となり、地域の教育課題を解決するために相互に連携し自主的に行われている実践活動の総称であります。この運動も四十年を越え、ややマンネリ化の傾向が指摘されることもある状況の中で、本校は学校支援地域本部事業を推進する機会を与えていただきました。

本校を取り巻く地域は、例年学区ごと夜間開催する地域別懇談会に、保護者に加えて町内役員や民生児童委員が多数参加するなど、学校に非常に協力的です。

そこで、本事業を推進するに当たって、「新たに発掘したい地域の教育力」と「これまで協力していただいている既存事業の充実」の両面を整備することが重要と考えました。

前者として新たに図書室ボランティアが誕生し、週二回稼働して図書整理や修繕、新刊紹介などの環境整備に関することや、図書貸出の実務を担当していただいています。また、例年一年生が一学期実施している学年行事の登山に対応していただく、登山ボランティアが今年新たに始まり、生徒に登山の心構えを話していただいたり、当日の登山途上で植物

(2)



名を教えてくださいたりなどの協力をいただきました。さらに剪定を中心とする植栽ボランティアも今年度の新たなものとして、経費面で大変恩恵を被ったところであります。

後者の筆頭は、部活動支援ボランティアです。今年、十三名を校長とPTA会長連名でコーチとして委嘱し、技術指導を中心に協力していただいています。学校で部活動顧問を決定するに際しては、担当する部が必ずしも当該教員にとつて専門であったり、技術指導が可能なものであったりするとは限りません。その意味から、教職員にとつては負担軽減上、大変有難いものとなっています。また、本校には学校行事等支援の面から「おやじの会活動」があります。これは、十年ほど前から始まったもので、会員相互の親睦、生徒の福祉増進、地域社会への貢献を志向して活動するものです。具体的には、例年十月の第二土曜日に実施する授業参観に合わせて、当日の授業後に「おやじのそば屋」を開店するという活動です。ここで提供するそばは、そば粉を用いた手打ちであるため、本番一ヶ月前からそば打ち講習がスタートします。この講習を経て本番を迎えることとなります。ちなみに、今年の「おやじの会」売り上げは十万円を超え、三万円ほどの益金が生じ、早速黒板クリナーの購入に充当されました。ここで特筆しなければならないのは、この会の構成メンバーです。今年の登録メンバーの内訳は、保護者十一名、教職員十一名、そしてOB会員二十名の計四十二名です。OB会員はかつての保護者（父親）です。今年の「おやじのそば屋」閉店後の反省会の席上で、OB会員と今年で最後となる現役役員から、「来年もこの会で活動するぞ」と、力強い言葉をいただきました。

地域の教育力低下も指摘される昨今、地域に教育力を求めるからには、学校もこれまでに以上に地域に対してできることを考え、行動化する必要があると考えています。

(全日中副会長・盛岡市立仙北中学校長)

(3)

